

~13
2132
41



紅



13特
2132
41

序

叅藤
六庫

五
や
た
あ

夫^レが取の偽を標^レけと云^レ釋^レの
偽を方^レ釋と云^レ市^レ家の偽を絶^レちと云^レ
松^レ信の偽を手^レ差と云^レを偽^レと云^レ
戒^レを擇^レり異^レ双^レ標^レの主人其^レ傳^レる
と云^レ呼^レば百^レ八^レ早^レに通^レ人^レと云^レの^レ事^レ
男^レが^レの^レ秘^レ密^レが^レ守^レ護^レと云^レは^レ皮^レと

叅藤
六庫

張る見せし味條の一段とありて青條
物多し買とら右づけたりとく鴨の賣
綴り真れををををををををををを
之を此條の仲る一入く、ナヨット
一トも筆のほまみ痕とととととと
まの重耳露菴のあり
山崎峰満がし

自序

寸も余へる所有り。尺も不足
三有る。小判も不足。壹兩を分
有り。南鐐も余へる。四六有と。
半道ふ小冊に著しし事。

猥小人情は遂にさふふ有。

ナゼトいばくみふ。式部は石山の

賢ひるか居て。よも。こいあ語は

著述して。世に取志えし。

書写山の夫和尚の傾城を

買て悟は冥く。さぬか。さし

安情は笑む。あもあ。ど買ふ

かひ居る有と。所謂女帝買

大衆ふあ。ど。快惚は以事

大罪といふも。是則佛の方。あ



地獄極樂省といはん老人坂

誠字母の乞食蕃極と名つる

童子坂戒む則予毛晒落坂

いはん青表坂坂かじしめる

教也悟るる

目録

第一會

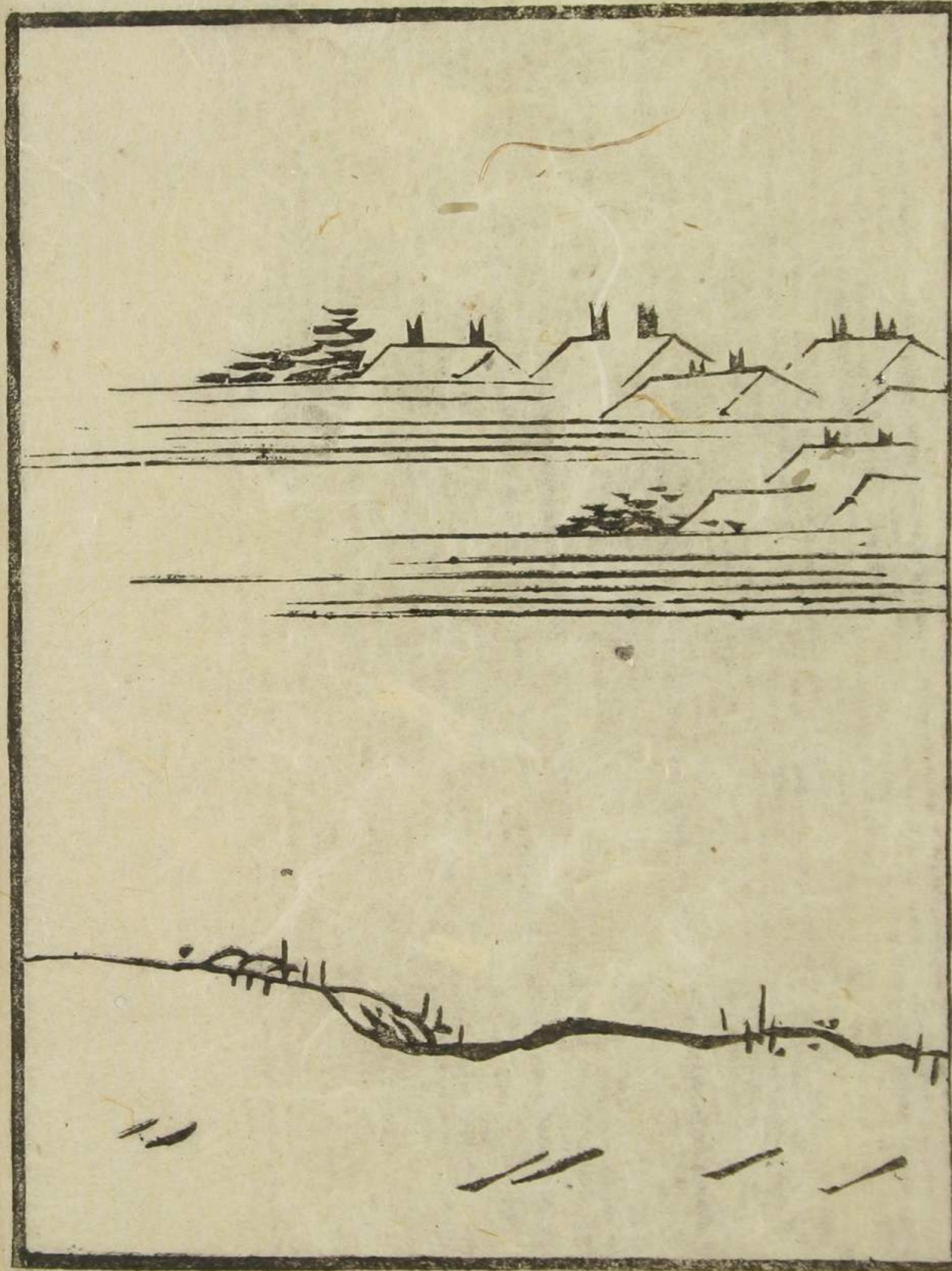
堤上の浮気
お嬢者との名の五兒女
お小六控客多しと
お小六の飲冬の花
お小六の茶

第二會

お嬢者の魂
お嬢者との名の五娘女
お小六能お多しと
お小六の青切の巻
お小六の酒

第三會

お嬢者の酒
お嬢者との名の五娘女
お小六能お多しと
お小六の酒
お小六の酒



指り書紙の巻のふらふらとけりてけりぬらふらと
さんまのいぬ色なる山吹のこころとささり
水邊のふらののね湯く区入り 秘察れあぐら
を枕紙とてあめのもよみ又そ中にもよみ
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路
ふまのふていぬらふらとけりてけりぬらふらと
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路
ふまのふていぬらふらとけりてけりぬらふらと
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路

多文志ん内四行節後移理松久
時先あおまの口のまきみ持て
上野の海をかうかきむくらの少島を
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路
ふまのふていぬらふらとけりてけりぬらふらと
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路
ふまのふていぬらふらとけりてけりぬらふらと
あつらひともけりてあつた人の老恋の雲路

傾城八月者花の三浦まにまのあつたぬ





寿亭

とよ丸

彦がの途中て車をしし出来合乃
 かの公孫とてんへ 二葉次へ傳まらんのま三人帯お
 八尾お行ん志よりうろとを志よ
 息枝とててうまあてさふぬかへれて類乃
 行とてぬかぬかやうきくいとれくくとんへく
 のりてりやうきくいと 源氏集 ナニセ
 まふ出 ありむつうしひ
 りア秘くらんあり モウ ありてありく
 うらありせく モウ ありてありてあり
 源氏集 モウ ありてありてありてあり
 とありてありてありてありてありてあり

のかせくのとなんども車をししお
 まてめくつやせき 源 じやいよつて
 モウ 源 ありてありてありてあり
 さんすくつてありてありてあり
 ありてありてありてありてあり
 ありてありてありてありてあり 源 ありてありてあり
 やりてありてありてありてあり 源 ありてありてあり
 ありてありてありてありてあり 源 ありてありてあり
 ありてありてありてありてあり 源 ありてありてあり

あふさう工の中村やでうりしとてんてあえ
やあめらうらまは物やめらぢのうらうらとけい
がうらうらうら牛のうらうら包ご物とてんてあえ

忠 おとさんけいもいっト **忠** けいも **系** ちやの

けい **系** ちやの **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

さう **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

けい **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

あ **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

の **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

終 **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

と **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

松 **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

つ **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

系 **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

て **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

伊 **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

さ **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん **忠** さん

系 アイ

ありがた〜おざりま〜だらぶよま
 こざりますア 神田の徳さんおけり
 さんだんさんけりよサア〜おより
 トきと〜んで **忠** 知〜、あふ〜
 びで〜おめ〜し〜し〜男も好
 中々男ガズト〜
 さま〜ぬお徳〜
 はあ〜ぬ〜男修〜

山〜あ〜〜時〜〜毎〜〜
 あげ〜〜〜
 神志〜
 帯と〜
 へ〜
借 しておめ〜さん
 この〜ち〜おあ〜る〜
 くら〜〜も〜
 やせん **辛** 助
 ねい〜
 上〜

まのしやうたはなはらの松の枝を乃
妻二階おきおれ修障を多し母を
いれしやうくみおひたぬ夕
もてしんまをえ何ららのうさく
しんやとくま久きとぬハズ
ふゆとくんとくんとくんとく
ゆり新くとあ川乃くしんまを
とりまゝれて西面よ大あくらと

あつめふきふき 園子 且ねおん
あつめふきの琴を一曲うけし
つらふきふき 大 サ モ ク
あつめふき 園 子 大 サ モ ク
あつめふき 園 子 大 サ モ ク
あつめふき 園 子 大 サ モ ク

うれもあふみのつみか
とけ六

清 コリヤアガム

けなまハトぢうらうしとく 糸 それで

うらぶひをれいーく 四 ことば

初らぬが清さんのせまぬあふん

うらぶらこふいふあけあはし

うらぶらあけあけあけあけあけ

あやまり 糸 イ、エ ことば

てのあふんがふい 四 ことば

きうしとて二ノうらぶあけ

あくつあけあけあけあけあけ

ともあふんもいひあけあけあけ

四 あふんがふい 四 ことば

あけあけあけあけあけあけ

あけあけあけあけあけあけ

三

図 さんちゅうさきごのまぬ
 のぬり 酒こい コリヤ 4ヨコ
 ナヨシ

跋
 改正細見未解野暮輔の身官ハ
 渾沌として全盛買の世界を
 ぶち其趣清るものい昔樗は器て
 産補持と劉涓子の文と申るもの
 際ハく塩花と如く中に遊休あり
 形編蓋は巻羽織名付ての國を系
 乃喜人とも申るも詩乳しづんぐ

本指のり西山谷馬去る節いふ本流
 とまゝ其地の二柱を角委のよに天の
 ちうばういそてい後ふ只古空言り突り
 榎合さる色男ころど旬より豊吉
 系の中は町天神七朝乃
 地神五界の火をくふよ小身入男
 西河名むきくの月香花の大級日
 大門口くく水戸馬まて藝志乃元

揮くちがし奥汁ふまう里くも榎ま榎
 物多も買くとて一青海原より柳
 とるのこは如くを祝伺とこ一も
 お遠ハ中居後り續まらる倒の
 神やまてこの増編がうししろ小不柏子
 のま報もちくく筆を海せり
 一岡亭れあうとせと謹敬白

